

(有)賃貸ルーム

大垣市・不動産業・福祉

従業員数／男性6名 女性16名 計22名 ※令和6年11月現在

エクセレント
POINT

- ①細分化された7つの委員会で積極的に改善提案活動
- ②職員一人ひとりの悩みや家庭環境に配慮した面談を実施
- ③コロナ後でも工夫して地域貢献活動を継続



散歩途中に立ち寄ってくれた地域の幼児園児。地域との交流を大切に、取組みを続けている。

賃貸ルームが運営するグループホームてんじゅでは、2017年に業務改善のための7つの委員会（入浴、環境、ケア、給食、レクリエーション、おむつ、医療・感染）を設置。また虐待防止検討委員会・生産性向上推進委員会・身体拘束適正化検討委員会も毎月開催し、その都度の課題解決に取り組んでいる。職員は改善点を随時提案し、委員

小規模企業の強みを活かし職員の個性が輝く

医療・福祉

会の裁量で物品を購入したり、企画提案したことを形にしている。これまでには、膝の痛い夜勤者のためのリクライニングシートの導入や、背の低い職員でも届く高さの棚の設置、利用者がくつろげるソファの選定、購入などの実績がある。

また、仕事の目標を明確にしてみようとともに、悩みも言える場を設けようと、キャリアコンサルタントの資格を持つ平野真弓所長による職員面談を年2回実施している。

育児や介護との両立にも力を入れており、状況に応じて在宅勤務等を選択することができる。また、介護休暇は特別休暇扱いとしており、職員の家族が要介護状態になった時に介護サービス認定の申請や認定調査への同席、介護施設との契約時等、介護にまつわる様々な場面で利用することができる。

地域貢献活動については、大垣



人材育成と職場改善の取組みが評価され、岐阜県介護人材育成認定事業でブレード1を取得。

市の「さわやかみまもりEYE」に登録し、入所者と職員が通学路を散歩して、異常を見つけた場合は自治体と連携し学校に報告したり、近くの幼児園で認知症サポーター養成講座を実施。コロナ後でも手紙やオンラインなどで交流を続け、地域の介護人材の育成にも尽力している。